

学位被授与者氏名	王 源 (おう げん)
論文題目	「和陶詩」研究
論文審査結果の要旨	<p>本論文の価値は二つあると言える。一つは、蘇軾の生涯や政治的な立場の分析を通して、蘇軾が何を契機として「和陶詩」制作に没入したかを考察し、また門人たちとの文学集団において「和陶詩」がどのような役割を果たしたかを考察したこと。もう一つは、蘇軾以降、蘇軾の「和陶詩」がどのように門人や後世の詩人に受け継がれたかを考察したことである。後者については、金・元代の詩人にまで言及したことを特に指摘しておく。「和陶詩」研究はもちろん、陶淵明文学の受容の研究においても宋代以降の研究は手薄なところであり、ページ数は少ないものの、そこに挑戦したことは称賛できる。</p> <p>しかしながら、論文では「和陶詩」以外の詩にほとんど触れられていない。「和陶詩」以外の詩も取り上げて論じられれば、蘇軾およびその他の詩人の文学全体の中での「和陶詩」の位置付けがはっきりとし、より「和陶詩」の特徴や価値に焦点を当てることができたのではないかと思われる。また全体として論考や記述に粗さがあり、もう少し丁寧に資料を分析して考察し、論証していければもっと説得力があったのではないかと思われる。</p> <p>平成 30 年 8 月 21 日、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 3-329 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>